

令和7年度 京都府立東宇治高等学校学校経営計画（実施段階）
（スクールマネジメントプラン）

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>自主性を基盤に、社会と関わり、課題を解決しようとする人の育成をめざす。</p> <p>そのような人を「みらいを明るくできる人」と定義し、その育成のために、生徒に次の姿勢を身に付けさせる。</p> <p>(1) 挑戦する姿勢 (2) 周囲と関わる姿勢 (3) 努力し続ける姿勢</p>	<p>○1人1台タブレット端末の導入4年目となり、タブレット端末の効果的な活用及び情報を正しく活用していく力の育成を再認識した。引き続き情報モラル・情報リテラシーを身に付けさせ、生徒がタブレット端末を効果的に活用できるよう研究する。</p> <p>○観点別評価については、評価方法について一定の方向性が見い出せ実施できた。</p> <p>○学校行事及びオーストラリア、アメリカ、タイ、台湾との国際交流事業の実施が普段通りになり、多くの生徒が一定の充実感を感じたことは評価できる。</p> <p>○校則については、生徒会及び教職員の意見を踏まえて見直しを図り、生徒へ周知することができた。</p> <p>○学校評価アンケートでは、9割以上の生徒が充実感を持って学校生活を送っていることが窺えた。次年度以降も本校の教育活動についてさらに見直しを行い、教職員が一丸となって組織的に取り組んでいくことが必要である。</p> <p>○生徒募集においては、山城通学圏の中3生が昨年度に比べ減少したが、本校の特色ある取組について中学生、保護者、地域に広く理解を促すことにより、入学者選抜において一定の成果を出すことができた。来年度も引き続き、広報活動等に積極的に取り組み、中学校との連携を密にすることが必要である。</p>	<p>中期経営目標に掲げた本校のスクール・ミッション及び本校の教育目標を踏まえ、本年度は次の目標に重点を置く。</p> <p>(1)人権意識と社会性の涵養 日々の教育実践が、人としての基本を身に付け、互いの人格を尊重し、人権意識を備えた人材の育成の場であることを常に意識する。</p> <p>(2)規律ある態度の育成及び校則等の見直し 確かな学力の育成のため、授業規律及び生活規律を生徒に身に付けさせるよう学校全体で継続的な指導を図る。また、生徒指導提要の趣旨を踏まえ、引き続き校則及び諸規定についての見直しを図る。</p> <p>(3)授業改革及び教育のUD化 1人1台タブレット端末等のICT機器の活用を積極的に推進し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」がより良く連携することで、主体的・対話的な深い学びが相乗効果を発揮できるようにするとともに、観点別評価の実施と併せて生徒の学習改善を図る。また、特別支援教育の観点から授業を含めたすべての教育活動においてUD化を推進する。</p> <p>(4)キャリア教育と進路指導 社会への貢献、社会とのかかわりを意識づけるキャリア教育を進めるとともに、高大接続改革などに対応した丁寧な進路指導を一人一人に行い、希望進路の実現を図る。</p> <p>(5)総合的な探究の時間 「国際教育と地域連携をテーマとした探究学習」の研究をさらに推進し、その探究の成果を生徒の進路実現のために活用する。</p> <p>(6)外部機関との連携 大学等の研究機関、地元小中学校、地域の団体または海外の高校などとの連携を深め、グローバル社会・地域社会で活躍するための素養を醸成する。</p> <p>(7)働き方改革 ICTを活用した教科・分掌等の業務内容の効率化を推進し、教職員が生徒と向き合う時間を確保しつつ、ライフワークバランスを踏まえた働きがいのある職場環境を整える。</p>

重点目標

<分掌・教科>

A:十分達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:ほとんど達成できなかった

領域・教科	重点目標	短期経営目標達成に向けての具体的取組	評価	成果と課題
組織・運営	分掌間及び教科間の連携・協働の推進	本校の教育目標の実現に向け、各分掌部長及び教科主任が主たる調整役となって、関係する分掌及び教科と連携・協働し、効果的・効率的に業務を遂行することによる働き方改革の推進を図る。	B	ICTを積極的に利活用し事務作業の軽減を図った。時間外勤務が一定以上の教員には面談等を実施し、少しでも改善できるように取り組んだ。次年度以降は、ノー残業dayをweekに一本化していきたい。
教務部	・授業改善 ・観点別評価についての改善 ・働き方改革に伴う業務の見直しと精選	・効果的に公開授業を行い、授業のUD化やICTの利活用を促進するとともに、授業の改善を図る。教員、生徒がともに「授業を大切に」という意識をもち、授業規律、各種届の提出を徹底させる。 ・観点と評価の関係について、教科間の交流を図り、改善を行う。 ・あたり前に行っていた内容も、工夫・改善を行い、業務の軽減を行う。	B	・公開授業週間では昨年度に比べ、教員の参観数が大幅に増加した。また、授業開始時に目標を明示するなど、UD化の取り組みが進んでいる。 ・観点別評価については、引き続き教科主任会を中心に意見交流が必要である。 ・約半数の教員がデジタル採点システムを利用するようになった。選抜でも実施する予定である。
総務企画部	・魅力的な広報活動の展開 ・地域に開かれた学校づくり	・中学生に本校の魅力を伝えるため、各分掌・教科・生徒会・部活動と連携し、できるだけ多くの生徒への協力依頼をし、学校説明会や部活動体験等を行うことで、より効果的な広報活動を展開する。 ・PTA・教育後援会の運営・活動を役員と協力して円滑に行う。 ・地域の方や保護者、中学生等に学校の様子や生徒の活動が伝わるように、PTA広報誌、Webページ、Instagram等を活用する。	B	・中学校訪問・本校開催の説明会・部活動体験等、全教職員協力のもと円滑に開催することができた。生徒にも協力してもらい、多くの中学生・保護者に好感を持っていただいた。参加人数も昨年と同様の参加があった。目標はある程度達成できたのではないかとと思う。 ・PTA・教育後援会への入会については、概ね趣旨を理解し加入してもらった。加入しない家庭への対応は検討課題である。各委員会の役割も簡素化し、参加状況も良かった。 ・今後も、地域への発信やPTAの円滑な活動ができるよう進めていきたい。

領域・教科	重点目標	短期経営目標達成に向けての具体的取組	評価	成果と課題
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の活性化 ・学校行事(生徒指導部主管)の活性化 ・教職員で連携が取れた中で全校体制での生徒指導の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の活性化に向けて、生徒の所属部活動を随時把握し、入退部などの登録管理を徹底する。及び部活動ミーティングなど部活動全体での取り組みの活性化。 ・文化祭、体育祭における生徒の充実度や満足度をより高いものとなる、取り組みにする。 ・学年との連携や様々な分掌との連携を密にし、全教職員で一致した生徒指導を行う体制をつくる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動活性化に各部活動の顧問が励んだ。 ・文化祭は事後アンケートにおいて生徒の満足度100%となった。体育祭は部活動対抗リレーの導入、グループ編成を昨年度からの変更などを行った。生徒事後アンケートにおいても満足度90%となった。 ・各学年と連携をとり、指導できている。
進路指導部	<p>生徒が進路学習を通じて、社会との関わりを意識したキャリア形成を行い、希望進路実現に邁進する姿勢を涵養するために必要な支援を行う。</p> <p>生徒だけではなく教職員も高い人権意識を持つための啓発活動を行う。</p>	<p>学年や状況に応じた進路学習を企画運営する。また、入試に対応できる学力を育成するために各種学力テストなどを活用できる環境を整え、教科、学年部との連携を図り東宇治高校が抱える課題を共有する。さらに、1・2年については、学習用端末を用いた新たなキャリア教育の方法について、情報収集や検討を進める。</p> <p>人権啓発活動の一環として人権教育及び研修などの企画運営を行う。特に、学習用端末を持つ学年が1～3年生の全学年となるため、このような状況下で必要となる人権教育及び研修について検討を進める。さらに、昨今、取り上げられている人権を意識した研修について検討を進める。</p>	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の進路学習・模擬試験は、学年・分掌と協力し計画通りに進めた。 ・外部講師を招くなどし、各学年に合わせて人権教育を行うことができた。また、教職員人権研修はPTAと共催でLGBTQ+をテーマに行った。教職員からは概ね好評であった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路希望がより多様になってきていることを踏まえ、適切な時期に状況提供や進路指導を行う必要がある。 ・学習用端末を利用したキャリア教育については、模索中である。 ・教職員人権研修に共催のPTAからの参加がなかったため、広報を工夫する必要がある。
保健部	<p>生徒の心身の健康を守り、安心・安全な学校づくりを推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の抱える心身の健康課題の多様化に対し、他分掌と連携を図りながら学校全体で組織的に対応する。 ・健康上配慮の必要な生徒や不登校傾向など様々な課題を持つ生徒に対する相談活動を充実させるとともに、健康課題の緊急性・必要性を見極め、カウンセリングを有効活用する。 ・清掃活動をとおりて学校美化意識の啓発に務める。 	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じ分掌との連携を行うことができた。 ・年度後半より心身の不調を訴える生徒が増加したためカウンセリングの活用など、保健室として適切に対処することができた。 ・清掃活動は概ね全校体制で取り組むことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急を要する事案などが多く、組織的な対応をとることを心がけたが不十分なことがあった。ケース会議の持ち方など工夫が必要である。 ・美化意識をより高めることで愛校心をはぐくむことができないか検討したい。
図書部	<p>読書活動を通して生徒の情操を豊かにするとともに、広汎な知見や幅広い思考力・積極的な探究心を持った生徒を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科と連携しながらメディアセンターとしての図書館運営を目指し、生徒・教職員の施設利用および図書の貸出を促進する。 ・生徒の積極的な探究活動が円滑に行えるよう、府立図書館等の相互貸借を活用し学習環境を整備する。 ・図書委員会等の活動を通して生徒に対する読書の啓蒙に努める。 ・図書館内での様々な企画・展示およびHPを活用しての広報活動に努め、「発信する図書館」を目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学びが円滑に行えるよう学習環境を整備することができた。 ・行事や季節に即した展示や校内の式典や講演内容に関連する書籍の展示などをタイムリーに行うことができた。 ・生徒の図書貸出の促進については検討を続けていく。
第1学年部	<p>自主性を基盤に、規則正しい生活習慣と学習習慣の確立、良好な人間関係の構築に積極的に取り組ませる。また、安心・安全な生徒集団の形成のための人権意識を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻や身だしなみを含んだ授業規律の確立を図る。 ・規則正しい生活リズムと自宅での学習習慣の定着を図る。 ・部活動や学校行事への積極的な参加を通して、チームワークやリーダーシップ、問題解決能力などを養うとともに、人権を大切に作る集団を育てる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい高校生活の基盤となる生活習慣や授業規律は、落ち着いた集団生活を通して概ね定着させることができた。 ・その中で家庭学習の習慣化には課題があり、2年次では内発的動機づけを高めたい。 ・安心・安全な学校生活に必要な人権や規範意識の未成熟さを背景とした課題が散見されたため、家庭との連携・協力を強化し、継続的な指導に当たりたい。
第2学年部	<p>希望進路実現に向けた基礎学力の定着と様々な課題に目を向け、自ら解決することのできる力の育成に重点を置く。また、自身と深く向き合うことのできる有意義な高校生活を送り、社会の一員としての未来を描く姿勢を培う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・深い学びを追求する喜びを実感することのできる力を育成 ・家庭学習習慣を定着させ、授業内容理解の向上に努める姿勢の育成 ・スマートフォンに依存せず、適材適所での活用について正しい判断ができる力の育成 ・研修旅行を通して協調性を身に付け、互いに助け合う力の育成 ・人との関わりを通して、課題解決へ向けた協力ができる力の育成 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習や文化祭等の学校行事から様々な場面での課題を解決する力を身につけ、宿泊を伴う研修旅行の中で互いに助け合う豊かな人間関係を育むことができた。 ・最終学年に向けた進路学習を通して、学習習慣の定着と希望進路の実現を目指し、基礎学力の定着を図る。

領域・教科	重点目標	短期経営目標達成に向けての具体的取組	評価	成果と課題
第3学年部	希望進路の実現に向けて、努力し続ける姿勢の育成を継続する。将来のことについて深く考えさせる。また、周囲と関わるなかで、相互理解し好ましい人間関係・生活集団の構築に取り組ませる。	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組めるように、学習室や進学講習を有効に活用するよう促し、自主的・計画的に学習する習慣を培う。また、学習する雰囲気を持続したホームルーム経営に努める。 基本的な生活習慣の確立・実践を継続して指導し、進路決定後も規律ある生活を送るよう指導する。 様々な行動様式・考え方を持つ生徒がいるなかで、各分掌と連携を取り、学年内でも連絡を密にして、適切な指導を行う。 社会の課題に関心をもち、よりよい社会づくりの一員として行動する態度を育てる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導の取り組みや、模擬試験の受験を勧めることにより、志望校決定に対して真剣に考えるようになった。また、その後、受験結果を踏まえた指導により受験に向けての学習意欲も高まった。また、内定後本人を含め学年全体として落ち着いた様子であった。 進路意識の高揚や学年での指導もあり、安易な遅刻・欠席は少なく基本的な生活習慣が確立しつつある。 文化祭においては、演劇に積極的に取り組む様子が各クラスでうかがえた。また、集団の中で主体的に取り組む姿勢が見られた。
事務部	学習環境の整備並びに希望進路実現の支援	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き予算の効率的な執行と経費節減を心がけ、ICT教育の充実に必要な予算を確保、学習環境の整備も継続する。老朽化した施設設備の改修についても持続的かつ計画的に実施する。 希望進路実現に向けた就学支援制度の一層の周知を徹底するとともに、丁寧な個別対応に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 光熱水費や物価の高騰が継続する状況下で、目標の達成に向けて尽力した。 ただ今年度の運営費予算の配当状況では義務的経費の支払いに重点を置かざるを得なかった。 就学支援制度については例年どおり、丁寧な周知、個別対応を徹底した。
国語	教育のICT化や新学習指導要領に対応できるよう、積極的な授業改善に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 「考える力」の基礎となる漢字、語彙の学習指導を丁寧に行うとともに、文章を読み論理的に考える力や、自分の考えを適切な言葉を用いて他者に伝える力を養う。 ICT教育の具体的な手法や効果的指導法を研究し、教員間での情報共有を図る。 新学習指導要領の目指す学力を身につけさせるため、教材の精選を行い、指導法及び評価法についての研究を深める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 漢字や語句に関する小テストを毎週行い、語彙力を定着させるとともに、文章読解については、精読と速読の両面の指導を行った。文章を読み自分の考えを表現する力を養う指導の一環として、夏休みには読書課題に取り組ませた。全国読書体験記コンクールや全国高校生創作コンテストに応募し入選するなど、主体的に表現活動に取り組む機会を持たせることができた。限られた単位数の中で古典分野を扱う授業時数が不足しがちであり、特に漢文の学習時間の不足をどのように補っていくかが課題である。スタディサプリを活用するなどしているが、3年間を見通した指導のあり方についてさらに検討していく必要がある。
地歴公民	授業を通して生徒の興味・関心を高め、生徒の主体的な学びにつなげる。SDGsをはじめとする現代の諸課題について考察する態度を養う。希望進路を実現させるための学力を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ICT・視聴覚教材を、効果的・発展的に活用し、生徒の主体的な学びを促進させる。 JICAエッセイコンテストに向け、公共の授業内でSDGsを取り扱い、受賞を目指す。 教科内での授業研究を実施し、各教員が授業改革を行う。 進学講習を実施し、進学希望者の希望進路を叶える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業において、写真資料や風刺画・動画など、生徒の理解を促進するためのICT・視聴覚教材を効果的に使用した。また、ロイロノートを使用しての授業内容の振り返りや、生徒間での意見交流なども行った。今後もさらなる効果的なICT・視聴覚教材の活用を教科として検索していく。 JICAエッセイコンテストでは、事前指導を行った上でほとんどの生徒が提出することができた。 進学講習では大学入試問題の分析や、入試過去問の演習・講義などを行った。
数学	基礎的な数学の学力を確実に身につけさせ、学んだ知識を活用して問題を解決する力を養成する。	<ul style="list-style-type: none"> ICTの積極的な活用等様々なことに挑戦し、教員間で情報共有を図ることにより、授業改革を目指す。 毎授業の改善やテスト前の補充、小テストの実践などで基礎的な学力を確実に身につけさせる。 定期テストに知識を活用する問題を出题し、その対策を通して応用する力を身につけさせる。 新教育課程における授業の進め方・評価等の研究を深める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 普段の授業の中で、定期考査だけでなく模試や受験を意識した問題演習を行うことができた。 模試については、学年が主となり対策を行うことが多い。2学期以降は教科として授業と絡めながらの対策を行っていく。
理科	科学的な自然観や考え方を身につけさせ、自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする生徒を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の積極的な活用及びタブレットを効果的に活用し、授業の導入の方法や生徒の理解を促進する方法について研究し、授業実践を行う。 実験やグループ活動の機会を積極的に設け、実験に関わる基本的な操作を指導し、周囲と関わりながら他者と協議させ、課題を解決する姿勢を身につけさせる。 観点別評価による、指導と評価の一体化を推進する。 授業のUD化に取り組む。 進学講習の内容を工夫する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 実験で観測したデータをロイロノート等で共有、比較し、探究活動を深めることができた。またスタディサプリを活用し、授業の導入として既習事項を確認させたり、進学講習を行った。 考査を通して、グラフや表の読み取りを苦手とする生徒が多いことを確認することができたため、科学的な思考力を身につけられるように授業改善を図った。今後も科学的な見方、考え方が身につくような指導をしていく必要がある。 授業のUD化に関しては一定行うことができた。 観点別評価についてはさらに研究していきたい。
芸術	芸術の幅広い諸活動を通して、芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばす。	<ul style="list-style-type: none"> 各科目共通して、生徒個々の表現力、鑑賞力を伸ばすために個別指導を丁寧に行う。 個人のみならずグループ活動の機会を増やし、基本的な技術の習得とともに周囲と関わりながら問題解決能力を身につけさせる。感染症対策も講じながら授業運営を工夫する。 ICT機器の効果的な活用方法を工夫しながら、芸術科相互の実践研究の交流を充実させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各科目とも一定の技術水準への到達をめざす指導を行っている。各生徒の進捗状況を把握し、個々の感性や能力に応じ適切な指導や助言を適宜行う等丁寧な個別指導を心掛けているが、今年度多人数講座ができた科目については実技試験や授業の進捗状況に関して公平性を持たせるのに苦慮した。科目によっては協同学習にも重点を置き、グループワークを積極的に取り入れている。Wi-Fi環境は整っていないが可能な範囲でICTを活用している。「ひろがる心展」の運用も授業内で科目ごとに時差を設けて鑑賞を行い科目間交流ができた。

領域・教科	重点目標	短期経営目標達成に向けての具体的取組	評価	成果と課題
保健体育	『心』と『体』の調和のとれた生徒の育成。 健康の保持増進に必要な行動を自発的・自主的に実践する能力を身に付けさせる。	・運動やグループ活動を通して、規範意識や集団内での行動の仕方を学び、良好な人間関係の育成に資する。 ・生活の基盤となる基礎体力の向上を図るとともに、保健に関する基本的な事柄を学習し、健康的な生活を送ることができるようにする。	B	・年度当初のオリエンテーションや集団行動の実施により、規範意識や集団内での行動の仕方を学ぶことができた。 ・体育授業で必ず実施するアップ(体ほぐし)運動により、持久力、柔軟性等総合的に体力を高めることができた。 ・保健授業の発表や体育のグループ学習等を行うことで、自主性を伸ばし、主体的に自他の健康について考えることができた。
家庭	実践的・体験的な学習活動を通して様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。	・「みらいを明るくできる人」を育成するため、「持続可能な社会をつくる暮らしの担い手になる」をテーマに教科指導を行う。 ・家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫する。 ・ICTを活用し生徒の理解を促進させる。	B	・SDGs啓発ポスターを創作し代表作品を文化祭で展示した。 ・契約関連法律並びに消費者保護等の消費者教育を重点的に実施、消費者センターの協力も得て、自立した消費者への自覚を養った。 ・生活の中から問題を見つけて課題を設定し、解決策を考え実践するホームプロジェクトを実施した。 ・住生活で平面設計アプリを活用し生徒の理解促進を図れた。 ・ICTの活用やグループワーク等により、生徒の理解を促進できた。
英語	英語によるコミュニケーション能力を強化するための授業改善の取組を行うとともに、ICTを活用した授業を創意工夫する。	全学年の4技能のテストを以下のとおり実施する。 ・リーディングテスト(初見)は年間4回以上 ・リスニングテスト、スピーキングテスト、ライティングテストは各々年間2回以上 本校生徒の実態に合った目標を設定し、目標達成を目指すとともに、自ら学習する姿勢を身につけさせる。 英語科教員間での研修や授業見学などを通して、より良い授業を考え、実践する。 個々の教員が作成した教材の共有化を進め、データの蓄積を図る。	B	・4技能テストは各学年とも計画的に実施している。 ・事前にテーマを決め、取り組み内容及び課題を共有する研修会を実施した。年度末にも再度開催する。 ・タブレットを利用した音読テストの実施、音読アプリを利用した音読の指導等、個人ではなく学年全体としてICTを利用した活動を行うことによって教員全体の技能の向上が図った。来年度からMikanを採用することが決定。
情報	高度情報化社会における課題を認識し、情報機器を活用した問題解決の方法や情報モラルについて考えさせる。	・情報と社会について体系的・系統的に理解するとともに、情報と社会との関わりに関する課題を発見し、情報に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ・情報活用能力の習得を目指して自ら学び、情報社会に主体的かつ協働的に参画し寄与する態度を養う。	B	・前期は基礎力の定着を図り、情報と社会について体系的・系統的に理解する力を養った。 ・後期では「みらいを明るくできる人」の項目を意識し、グループワーク等を通じて、実践を重ね問題解決能力の向上を目指す。 また、生成AIの活用により取り組めるよう授業内容の改善を目指していく。
総合的な探究の時間	実社会や実生活と自己とのつながりから問いを設定し、「自分ごと」として課題解決に取り組む中で、主体的に動き他者と関わる力を育成する。 新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。	・「国際教育」と「地域連携」を軸に、「自己探究」「教科をベースにしたの課題探究」の視点を入れ、生徒が主体となって探究活動が行えるよう企画会議と担当者会議が中心となって指導を行う。 ・1、2年次の学習が、3年次の進路選択からの進路実現となるよう系統立てた実践を目指す。 ・情報収集だけにならない「つながる」「発信する」視点でのICT機器の活用を研究し、担当者間での情報共有を図る。 ・外部講師や大学等機関と連携をとり、学習内容に合わせた指導体制を確立する。	A	・1年生の「地域課題探究学習」では本年度初めて全講座フィールドワークを行った。実際に見て触れることで地域の課題を自分ごととして捉えることができた。 ・2年生では、「教科をベースにしたの課題探究」を実施した。自分たちの興味関心に合わせてグループ編成を行い、教科の学びを活かした探究活動を行い、2グループが探究EXPOで、3グループがグローバルネットワーク京都交流会で発表をした。 ・また、グローバルネットワーク京都では論文部門で最優秀賞を受賞した。
学校運営協議会による評価	・各分掌や教科で様々な工夫をされており、概ね計画していた取組が進められていると思う。 ・入学した生徒が、学力だけでなく、伸びたことを実感できるようにしてほしい。 ・落ち着いた環境で教育活動が取り組んでいる。			
次年度に向けた改善の方向性	・学習面での取組を行い、資格試験への合格率の向上に加えて、特に一人一人の進路実現ができるように、さらに教育活動の取組を進めてほしい。 ・卒業生・在校生の紹介を通じた広報活動の強化をして生徒募集を行ってほしい。			